とちぎ農産物マーケティング協会 月刊情報

平成29年 9月号 vol.120

◆いちご王国グランプリ表彰式・いちご王国推進会議を開催

8月8日（火）に栃木県庁講堂で、第11回いちご王国グランプリ表彰式を開催し、生産者及び関係者約140名が参加した。グランプリは生産技術の交流を推進し、栽培技術の改善と品質向上、生産意欲の高揚を図ることを目的として行われた。予備審査を経て、出品された13点の中から大賞並びに農林水産大臣賞をJAはが野の橋本司さんが受賞した。

表彰式後のいちご王国推進会議では、栃木県いちご研究所の大橋TLから「いちごの環境制御技術」について講演があり、全農栃木県本部生産振興課の土屋課長からはこれから運営される「いちごゆめファーム」の紹介があった。お二人の話とも、本県いちごの更なる生産技術の向上に役立つ内容であった。

◆栃木県冬春トマトグランプリ表彰式・栃木トマト産地改革研究会を開催

8月10日（木）に栃木県庁講堂で、第10回栃木県冬春トマトグランプリ表彰式を開催し、生産者及び関係者約130名が参加した。今年度のグランプリは、生産技術の交流を推進し、生産意欲の高揚と栽培技術の改善、高品質生産を図ることを目的に促成の部としてとして行われた。予備審査を経て、出品された11点の中から、大賞並びに農林水産大臣賞をJA足利の大澤広幸さん、るり子さんご夫妻が受賞した。

表彰式後の栃木トマト産地改革研究会では、全農栃木県本部生産振興課の尾股さんから「トマトゆめファームの取り組み実績」について、栃木県経営技術課の吉田副主幹から「従来ハウスを利用したトマト多収化技術」について講演があった。高軒高ハウスでの技術と従来ハウスでの誘引方法を工夫した技術の双方で、県産トマト栽培の増益に繋がる内容であった。

◆なし根圏制御栽培現地検討会を開催

県と当協会は、7月31日（月）鹿沼市において、なしの根圏制御栽培現地検討会を開催し、県内のなし生産者や関係者が参加した。
早期成園化技術である根圏制御栽培を活用した改植を推進するため、技術的な理解促進や経営的メリットの周知を図った。
現地検討会のほ場では、露地であることや2年目から収穫を開始し、5年目で慣行の2倍近い収量となったこと、品種の適正等について、様々な質問が出されていた。
ほ場検討終了後、会場を移して、農業試験場の大谷果樹研究室室長から講演をいただいた他、パネルディスカッションを開催し、参加者との意見交換も行った。

◆夏秋いちご連絡協議会総会・現地検討会

8月1日（火）、宇都宮市内において、なつおとめ生産者および関係機関約50名出席のもと夏秋いちご連絡協議会総会・現地検討会が開催された。
総会では役員改選があり、いちごの里の栃木浩一氏が会長に再任された。
検討会ほ場はCDPフロンティア（株）「大谷いちご倶楽部」を視察、収穫は5月25日から開始され、2段換気、遮光資材展帳、クラウン温度制御等熱暑対策の取組みを実施している。収穫は30年2月頃まで予定され、取引先は、市内洋菓子店や県内外のホテル、農産物直売店等顧客層は広い。
なつおとめは、需要に供給が追いついていない状況が続いており、当面は生産振興対策が課題。

◆とちぎの名産　かんぴょうむき体験とブルーベリー収穫体験ツアーin上三川を実施

当協会は、河内農業振興事務所及び上三川町他とともに、8月2日（水）地産地消をテーマとした体験イベントを実施した。消費者と生産者の相互理解の促進を図るため、県内外の消費者を対象に参加を集い、本県の特産物である「かんぴょう」の生産現場に案内し、生産者との交流を深めるとともに、かんぴょうむき体験を実施した。また、地元で生産された農産物を使用した料理体験も実施した。参加した人からは、「初めてかんぴょうの生産現場を見ました」などと、感動のことばをいただくなど、生産者と消費者の信頼関係が築かれた。

◆こんにゃく作況調査を実施

8月10日（木）に平成29年度第1回目の作況調査を実施した。（鹿沼市、茂木町）いづれの産地とも、植付け後は乾燥していたため出芽は平年より遅れたが、その後の降雨また7月後半のまとまった降雨があり生育は回復し、全般的に作柄は平年及び前年を上回った。今後も、9月・10月に2回目・3回目の調査を実施する予定である。なお、今年は2年に1回実施するこんにゃく立毛共進会を行う。

◆学校法人三友学園「夏休み食堂」での栃木県産米3銘柄と県産特産物PRフェアの開催

8月21日（月）～25日（金）の5日間、宇都宮市学校法人三友学園（調理師専門学校）にて、将来料理人を目指す学生の意識向上を目的に、「夏休み食堂」を開催した。当協会では、栃木県産米3銘柄（コシヒカリ・なすひかり・とちぎの星）と県産特産物（かんぴょう・こんにゃく）を日替わりで提供し、料理人の学生及び消費者へ県産農産物の美味しさをPRし、ブランド力の向上や消費拡大を図った。

◆りんどう研究会先進地視察研修会

栃木県りんどう研究会は、8月24日（木）～25日（金）の2日間、岩手県の八幡平地方を視察し、現地の生産者と意見交換を交えながら今年も視察研修会を実施した。

岩手県はりんどうの生産量が全国第1位ということで、圃場のいたるところにりんどうの栽培がなされていた。個人の出荷施設も機械化され、JA新いわての集荷施設では、真空冷却処理後出荷するなど、外国への輸出まで取り組まれていた。

また、視察先3ヵ所とも新品種の開発に取り組んでいて、今までの仏花のイメージを払拭しようと、カラフルな色のりんどう栽培に取り組んでいた。

栃木県でも、品質的には上位のレベルであり、特に県のブランド品である、「るりおとめ　月あかり」「るりおとめ　星あかり」の生産増に、関係者一体となって取り組んでいきたい。

とちぎ米－１コンテスト　出品募集のおしらせ

実力ある「とちぎ米」の消費拡大と更なる品質・食味向上及び、
生産意欲の高揚を図るために開催します。

栃木県産の「コシヒカリ」「なすひかり」「とちぎの星」
の3部門で県内に居住している生産者等を対象に募集します。
申込方法、提出物等その他詳しい内容については

（一社)とちぎ農産物マーケティング協会
「とちぎ米－1コンテスト2017」事務局まで
TEL:028－616－8787　FAX:028－616－8715

主催　一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会
共催　栃木県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会栃木県本部
　　栃木県食糧集荷協同組合、公益社団法人栃木県米麦改良協会
後援　栃木県
協力　静岡製機株式会社

◆ －新規　とちぎの地産地消推進店－ ◆

店舗名	住所	電話番号 HP	代表者
ペンション はじめのいっぽ	日光市所野1541-2371	0288-53-2122	波多江　定夫
日光くじら食堂	日光市久次良町238-6	0288-53-2206 http://nikkokujirasyokudou.com	上野　秀幸
イル・プラート	日光市木和田島1373-290	0288-32-2332	齋藤　貴生
メープル　レストラン	日光市中宮祠2482	0288-55-0713 http://www6.ocn.ne.jp/~sirakaba/	福田　政行
高根沢町漁港　大介丸	塩谷郡高根沢町上高根沢6484-6	028-678-8221 http://r.goope.jp/daisukemaru	服部　健二

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆　９月の予定　◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

5日(火)　とちぎ農産物イメージアップ研修会（宇都宮市：三友学園）
8日(金)　トルコギキョウ研究会総会（足利市：JA足利御厨営農経済センター）
8日(金)　洋蘭生産組合と市場・業者とのフォーラム（宇都宮市：ホテルニューイタヤ）
11日(月)　こんにゃく作況調査第２回目（鹿沼市・茂木町）
12日(火)　県産農産物の活用と新商品づくりに向けた現地研修会（小山市：いちごの里）
13日(水)　こんにゃく立毛共進会（県内全域）
14日(木)　こんにゃく立毛共進会（県内全域）
29日(金)　とちぎ農産物イメージアップ研修会（東京都）

一般社団法人 とちぎ農産物マーケティング協会 （平成29年9月発行）
TEL: 028－616－8787 FAX: 028－616－8715
http://www.tochigipower.com/ ☞「カラダにとちぎ」で検索